

領域・小問ごとの分析	対 策 の 視 点
<p>さはぜんぜん食べない」という誤答が比較的多く、さなぎの時期との混同が見られる。</p> <p>② さなぎのときのえさについても、「キャベツやアブラナを好んで食べる」という、幼虫と混同した誤答が多いが、正答率71%とほぼ理解されている。</p> <p>③ 成虫のときのえさのとり方については、正答率75%でほぼ理解されている。</p> <p>6. 昆虫の体</p> <p>(1) 昆虫の体のつくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率74%でほぼ理解されている。 <p>(2) 昆虫の体のつくりが似ていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率73%でほぼ理解されているが、クモを昆虫の仲間とした誤答が目立つ。 	<p>終了後、各視点ごとに整理し、相互に関係を持たせながら学習結果を的確にまとめさせることが大切である。</p> <p>◦ 昆虫の体の学習では、1種類の観察を深く行うとともに、他の昆虫についても観察させ、比較した上で共通点・差異点を明らかにすることが大切である。</p> <p>昆虫以外の、いわゆる「ムシ」も、機会をとらえて観察させると、昆虫の特徴が更に明確になる。</p>
<p>領域 B (物質とエネルギー)</p> <p>7. 上皿てんびんで物の重さを測るときの正しい分銅ののせ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率が56%と低く、「はじめに軽い分銅をのせ、だんだん重い分銅をのせる」とした誤答が多い。 <p>8. てんびんのつり合いとおもりの位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率68%で理解は十分とはいえない。糸の長さとの関係から誤って(u)を選んだ者が少なくない。 <p>9. おもりの重さとばねの伸び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率64%で理解は十分とはいえない。形の大きなおもりが重いと考えた誤答が多い。 	<p>◦ 実際に重さを測らせる学習の時間が少ないため正答率が低いとも考えられ、「測定しようとする物のおよその重さを予想し、その重さに近いおもりをのせる」とことと、「つり合ったあとのおもりの重さの読み方」と合わせて指導する。</p> <p>◦ てんびんのつり合いは、糸の長さ(おもりの位置)には関係がないことを、実験をとおして理解させる。</p> <p>◦ 強さと長さが同じばねに、と条件が明らかにされているので、実験の条件を重視して結果を考えるよう指導する。</p>